

平成27年度 上半期経営報告会

平成27年11月19日

目次

主な業務執行の状況

□地域経済活性化への取り組み	4
□お客さま満足度向上への取り組み	8
□人材育成への取り組み	10
□社会貢献・環境保全への取り組み	13
□格付取得のご報告	17

5-1 純資産の状況	27
5-2 自己資本比率の状況	28
5-3 不良債権の状況	29
6-1 貸借対照表	30
6-2 損益計算書	31
7 平成27年度計画の進捗状況	32

平成27年度上半期の業績

1-1 預金積金の残高	19
1-2 預金積金の内訳	20
2-1 貸出金の残高	21
2-2 貸出金の内訳	22
3-1 損益の状況	23
3-2 損益の増減要因	24
4-1 有価証券の運用状況	25
4-2 有価証券の評価損益	26

対処すべき課題

□支援力、営業力の強化	34
□生産性の向上・ローコスト オペレーション体制の構築	35
□人材育成・能力開発・人材活用 の強化	36

主な業務執行の状況

地域経済活性化への取り組み

◆店舗戦略による営業力強化

○個人特化型店舗 東端支店を新築移転オープン。



当金庫初となる女性支店長を登用、女性営業担当を配置し、女性ならではの強みを生かした営業活動を展開。

○ナゴヤドーム前支店をグランドオープン。

新規市場の開拓として、12月7日にナゴヤドーム前支店をグランドオープンします。さらなる営業基盤の拡大を図ります。



地域経済活性化への取り組み

◆お客さまに対する支援力を発揮

○地方版総合戦略を推進。
地域中小企業支援に向け、
安城市をはじめとする多くの
地域と連携。



碧南市中小企業支援業務提携

○マイナンバー制度実務
対応セミナーを開催。
マイナンバー法で企業が求
められる実務対応について、
中小企業の皆さまを対象に
セミナーを開催しました。



マイナンバー制度実務対応セミナー

地域経済活性化への取り組み

◆お客さまに対する支援力を発揮

○事業承継を支援。

後継者不足による中小企業の
休廃業に歯止めをかけるため、
大学と事業承継支援に関する
連携覚書を締結し、親族内の
後継者育成に努めています。



○M & A 業務の拡充。

(株)日本M & Aセンターが運営する「どこでも事業引継ぎ
システム」の取扱を開始、全国ネットワークで事業引継
ぎに関するマッチングの場を提供します。

事業承継・M & A(平成27年度上半期実績)

相談件数132件

地域経済活性化への取り組み

◆お客さまに対する課題解決力を発揮

- 相談会・セミナーを通じて、ものづくり補助金申請をサポート。



平成27年度上半期実績	申請数98件	採択数56件
-------------	--------	--------

- 成長事業分野に対する積極的な資金支援を実施。

平成27年度 上半期実績	環境・エネルギー	87件	60億円
	医療・介護・健康	47件	37億円
	その他	28件	18億円
	合計	162件	116億円

- お客さまの販路獲得を支援するためビジネスマッチングを実施。

平成27年度上半期実績	面談数46先	成立数10先
-------------	--------	--------

お客さま満足度向上への取り組み

◆お客さまに最適な資産運用をご提案

○資産運用セミナーを開催

資産運用がはじめての方から経験の豊富な方まで、皆さまにご満足いただけるよう、資産運用セミナーを開催しています。



資産運用セミナー

○ライフアドバイザー、マネーアドバイザーを中心とした資産運用相談を実施

大切なお金を「上手に運用したい」など、お客さまのご相談に専担の女性職員がお応えしています。



資産運用相談

お客さま満足度向上への取り組み

◆地域事業への参画

○プレミアム付き商品券の取扱を支援

各地方自治体からのプレミアム付き商品券の発行に伴い、当金庫では7市2町で換金事務を受託し、うち1市1町で販売事務を受託しました。



○子育て家庭優待事業に参画

子育て家庭優待事業に参画し、子育て家庭を応援しています。

○地域商店街が主催するスタンプ事業へ参加

地元商店街の活性化を図るため、地域商店街のスタンプ事業に参加しています。

人材育成への取り組み

◆さまざまな勉強会・研修を実施

- 若手職員の早期戦力化
新入職員研修をはじめ、入庫3年目までの研修プログラムを策定し、職員の早期戦力化を実現。
- 女性職員の営業力強化
女性職員を対象とした資産運用研修、ロールプレイング大会など女性職員向け研修を実施。
- 職員の課題解決力強化
職員のスキルアップ、キャリアアップを図るため、階層別研修を実施し、課題解決力のある人材を育成。



新入職員研修



窓口対応セールス
ロールプレイング庫内大会

人材育成への取り組み

◆ 職員の自己啓発、資格取得を支援

職員の自己啓発、資格取得を通じた能力開発、キャリア形成を力強くサポートし、お客さまのさまざまなニーズにお応えできる専門力の養成に取り組んでいます。

本年度上半期には、銀行業務検定試験 法務3級、財務4級において、合格率、平均点の高さが評価され、銀行業務検定協会から団体賞をいただきました。

主な公的資格等の取得状況

資格名	取得者数
中小企業診断士	15
社会保険労務士	4
行政書士	10
宅地建物取引士	132
1級FP技能士	31
2級FP技能士	727
3級FP技能士	261
CFP	3
AFP	9
DCプランナー1級	3
DCプランナー2級	11
証券アナリスト	2

平成27年10月1日現在

人材育成への取り組み

◆女性の能力発揮に向けた環境づくり

女性にとってより働きやすい環境を整備するため、女性会議

「Active Woman～働く女性の職場活性化会議～」を設置し、女性の活躍促進に努めています。



「あいち女性輝きカンパニー」として認証

女性活躍への積極的な取り組みが認められ、平成27年7月に愛知県から「あいち女性輝きカンパニー」として認証されました。

社会貢献・環境保全への取り組み

◆地域行事への参加



安城七夕まつりダンスパレードに参加



子ども会ソフトボール・フットベースボール大会
にボランティア参加

地域の皆さまとのつながりを大切にするために、地域の行事・イベントに積極的に参加しています。

社会貢献・環境保全への取り組み

◆振り込め詐欺防止の啓発活動を実施



振り込め詐欺防止啓発のぼりを寄贈



振り込め詐欺未然防止により
警察署より感謝状を受領

お客さまの大切なご預金を守るため、振り込め詐欺などの特殊詐欺防止に積極的に取り組んでいます。

社会貢献・環境保全への取り組み

◆金融教室、職場体験を実施



地域の小学校で「金融教室」を実施



地域の高校で金融機関の仕事を紹介

地域の明日を支える人づくりをお手伝いすることで、地域の未来に貢献したいと考えています。

社会貢献・環境保全への取り組み

◆環境保全活動を実施



長きにわたる内海海水浴場の清掃活動において
南知多観光協会より感謝状を受領



緑の募金運動を実施

限りある資源・エネルギーを大切にするために、地域の皆さまとともに環境保全に取り組んでいます。

格付取得のご報告

◆ JCR格付において、11年連続で「A+」を取得

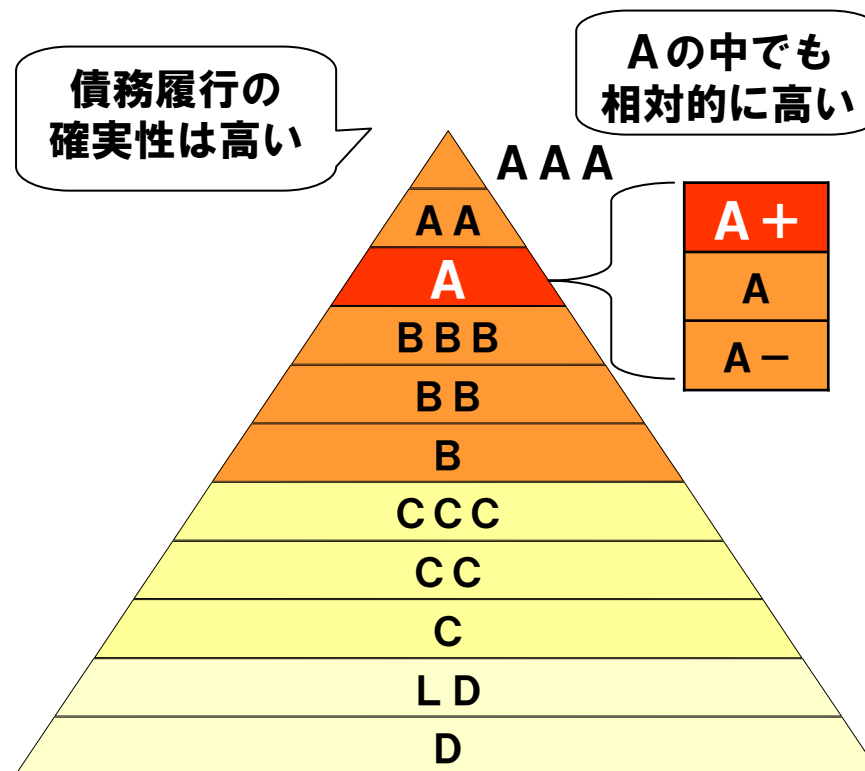
株式会社日本格付研究所（JCR）

格付の種類：「長期発行体格付」

格付：**A+**

格付見通し：「安定的」

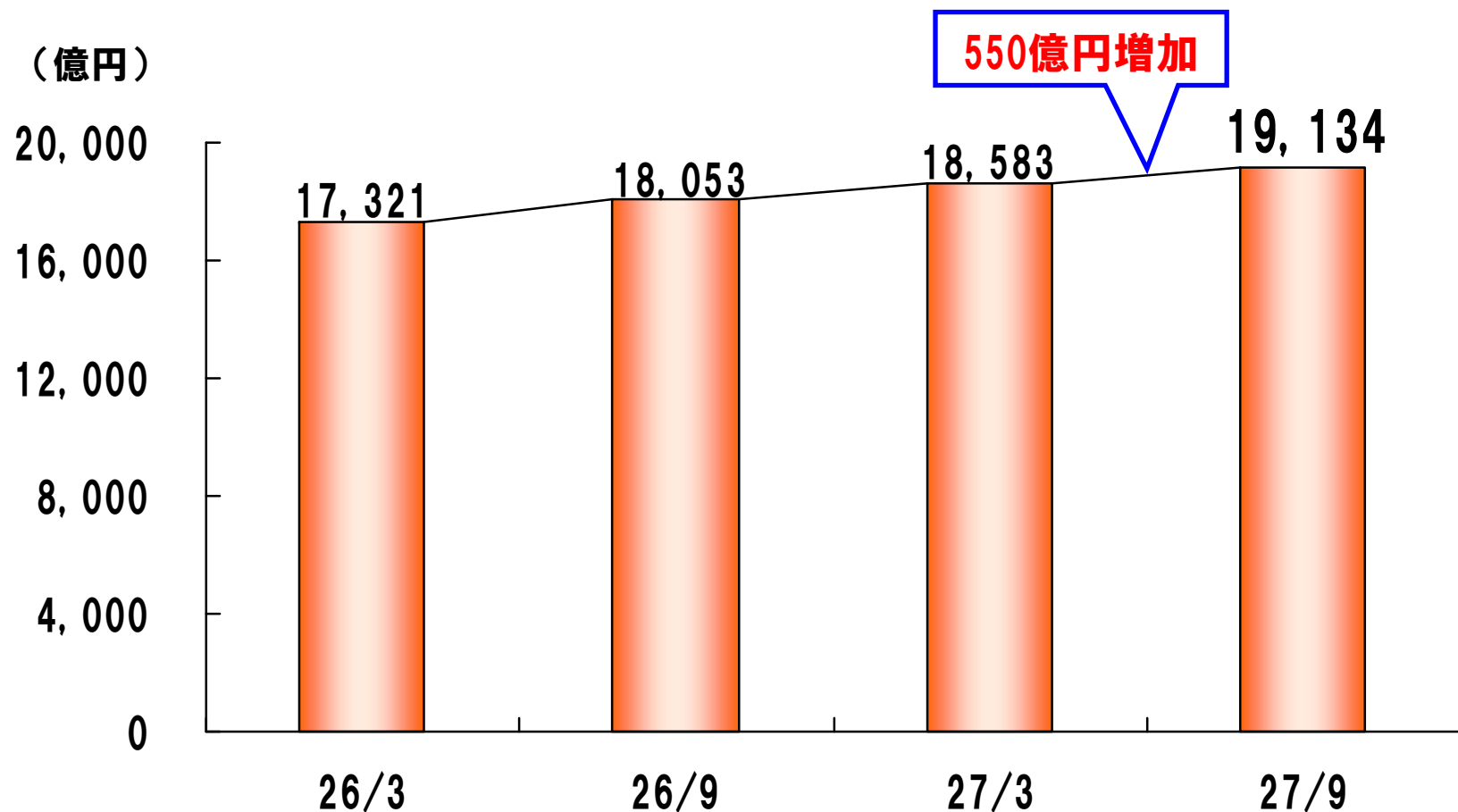
平成27年10月取得



平成27年度上半期の業績

1-1 預金積金の残高

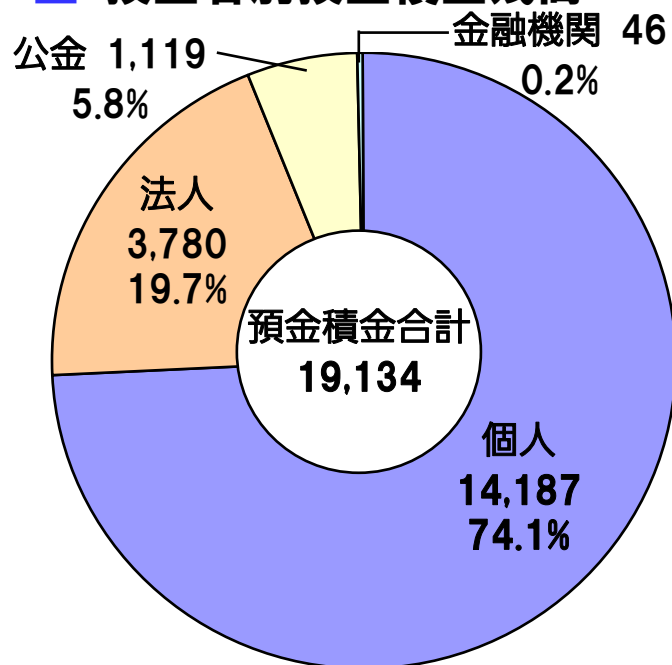
- 預金積金残高は1兆9,134億円。平成27年3月末比550億円増加。
- 個人のお客さまからの定期預金を中心に増加。



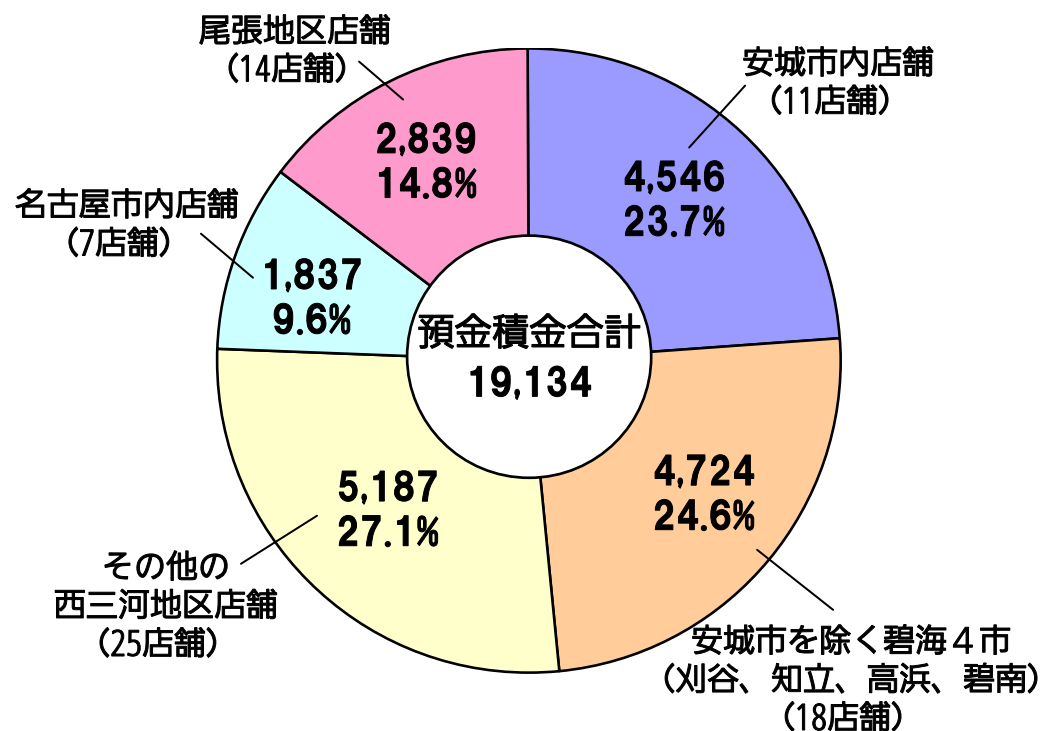
1-2 預金積金の内訳

- 個人のお客さまからの預金積金が全体の74.1%。
- 営業地区内の多くのお客さまからの幅広いご預金。

■ 預金者別預金積金残高



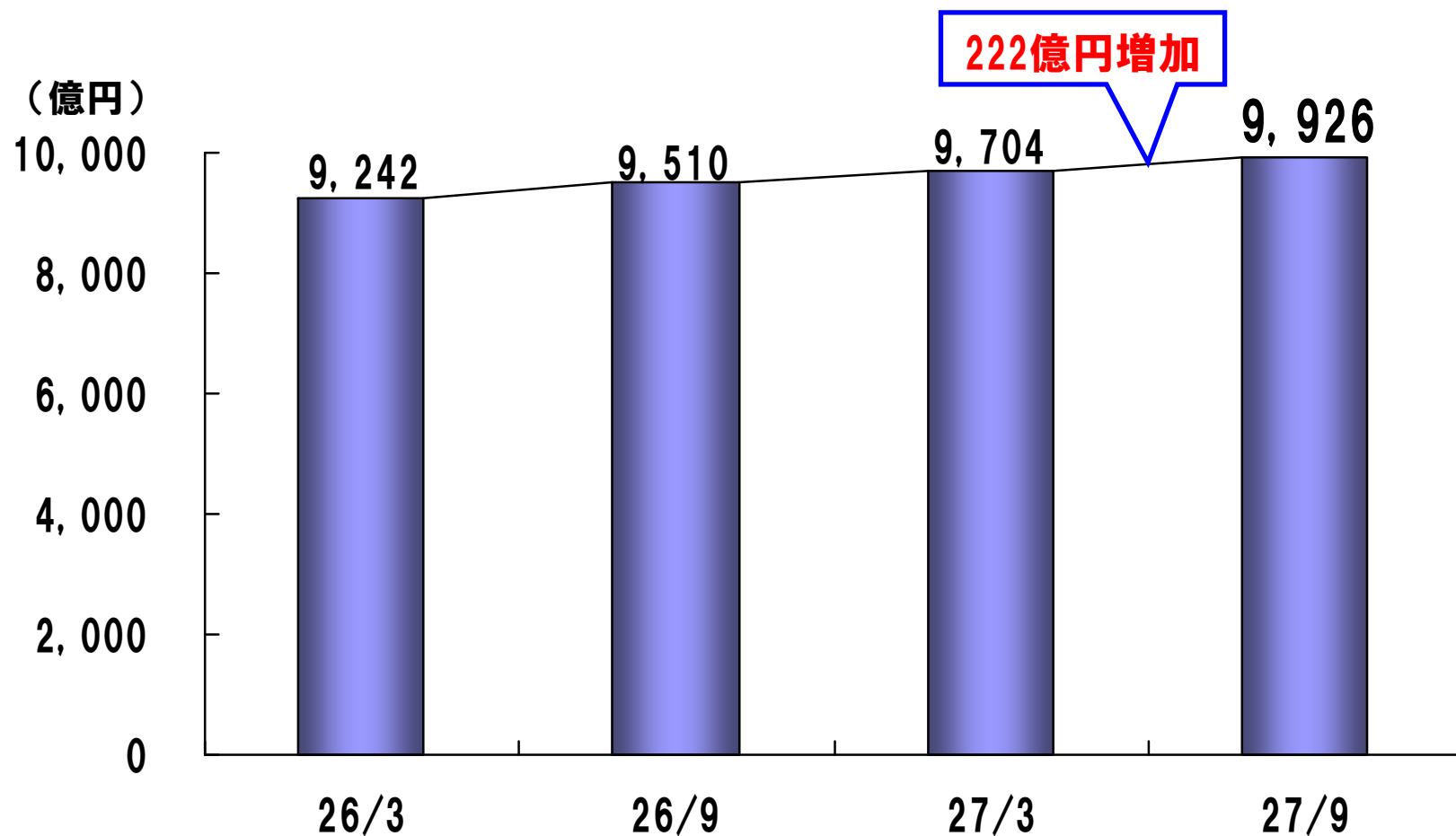
■ 営業店舗地区別預金積金残高



(平成27年9月末、単位：億円、%は全体に占める割合)

2-1 貸出金の残高

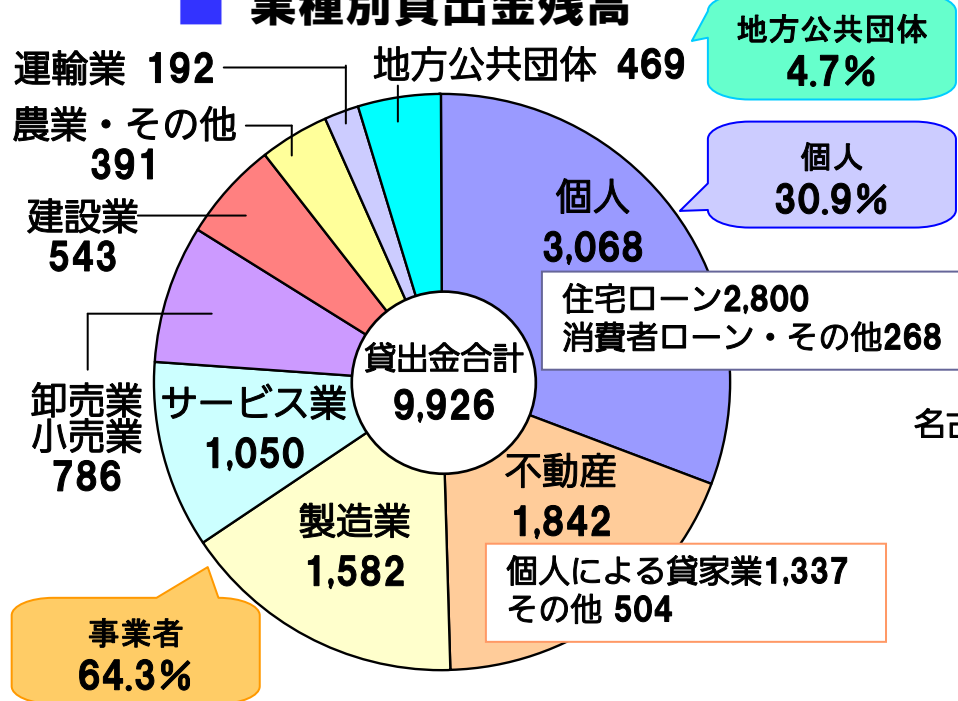
- 貸出金残高は9,926億円。平成27年3月末比222億円増加。
- 事業者向けの貸出金および個人向け貸出金がともに増加。



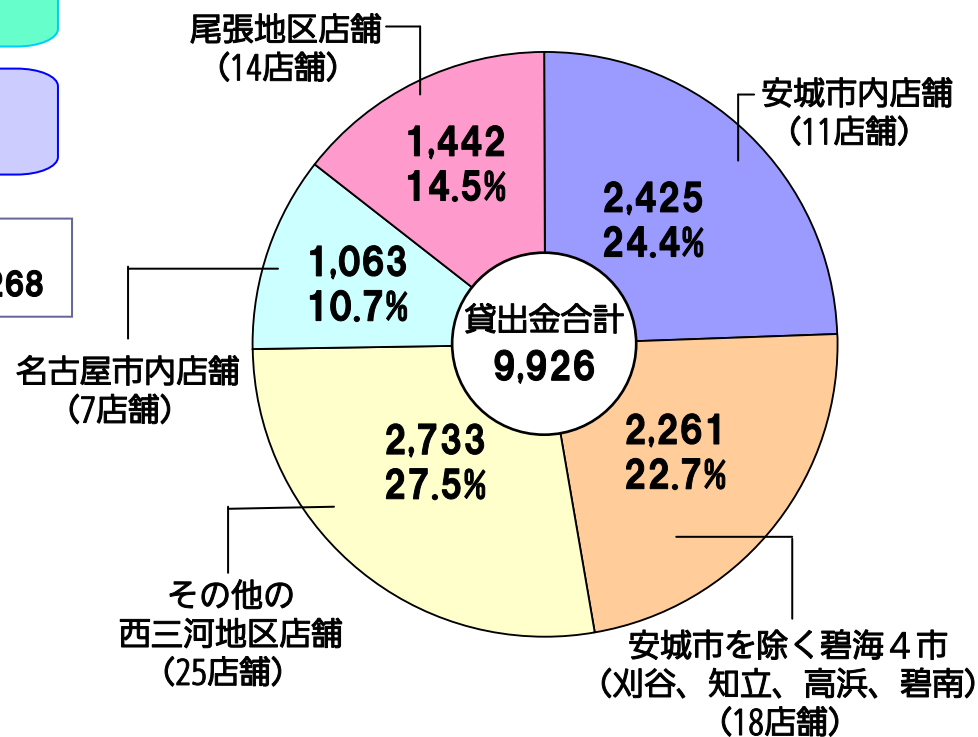
2-2 貸出金の内訳

- 特定の業種に偏ることなく、幅広い業種の資金需要に対応。
- 営業地区内の多くの地域のお客さまにご融資。

■ 業種別貸出金残高



■ 営業店舗地区別貸出金残高

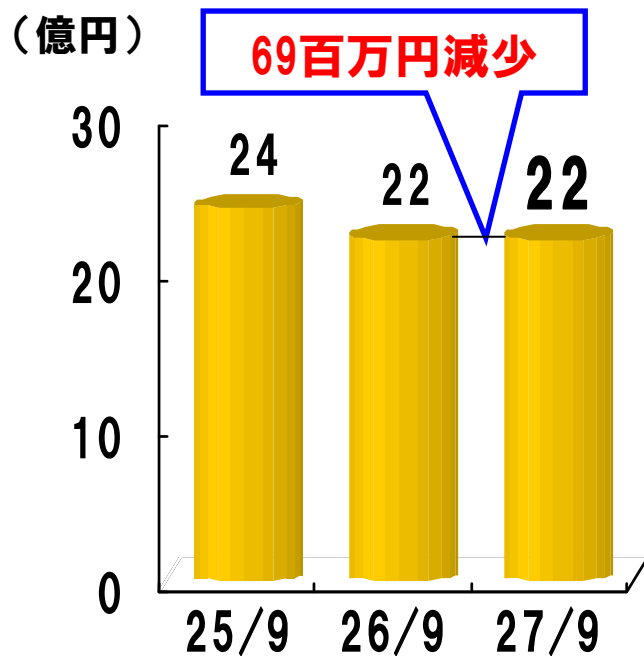


(平成27年9月末、単位：億円、%は全体に占める割合)

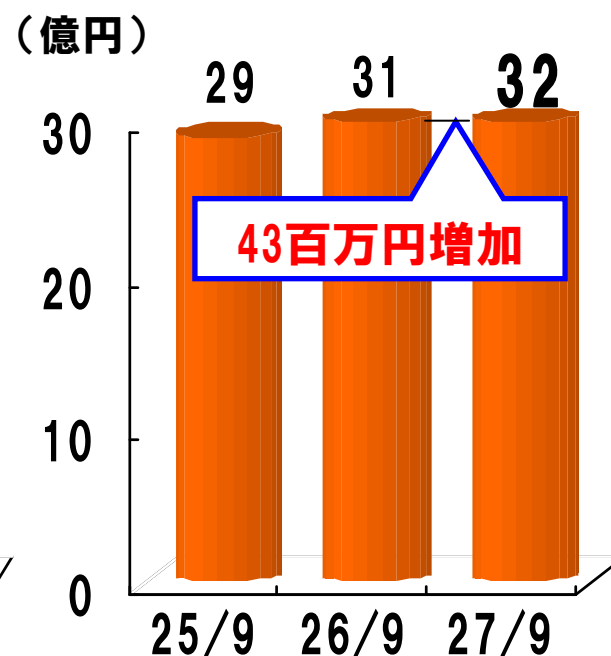
3-1 損益の状況

- 平成27年度上半期の業務純益 は 22億円、前年同期比 69百万円 (3.0%) 減少。
- " 經常利益 は 32億円、 " 43百万円 (1.3%) 増加。
- " 当期純利益は 23億円、 " 35百万円 (1.5%) 増加。

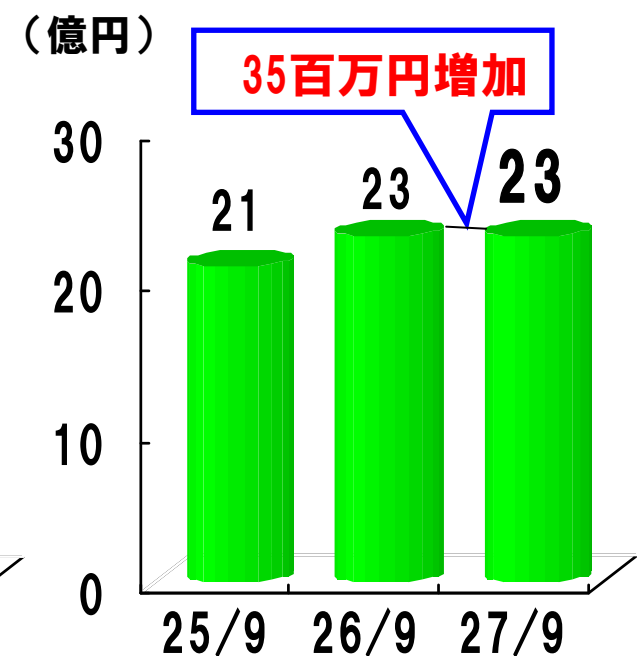
■ 業務純益



■ 經常利益



■ 当期純利益



3-2 損益の増減要因

(単位：百万円)

	平成26年度 上半期	平成27年度 上半期	増 減
業務粗利益	10,640	10,134	△505
資金利益	9,824	9,429	△394
役務取引等利益	562	586	23
その他業務利益	252	118	△134
(うち国債等債券関係損益)	213	80	△133
経費	8,341	7,905	△436
人件費	4,815	5,172	356
物件費	3,306	2,489	△817
一般貸倒引当金繰入額	-	-	-
業務純益(※1)	2,298	2,229	△69
実質業務純益(※2)	2,298	2,229	△69
臨時損益	865	978	113
不良債権処理損益	605	238	△366
株式等関係損益	205	682	476
経常利益	3,164	3,207	43
特別損益	△22	△2	19
当期純利益	2,318	2,353	35

預金利息の増加や貸出金利回りの低下による貸出金利息の減少により、業務純益は前年同期比69百万円減少の22億29百万円となりました。

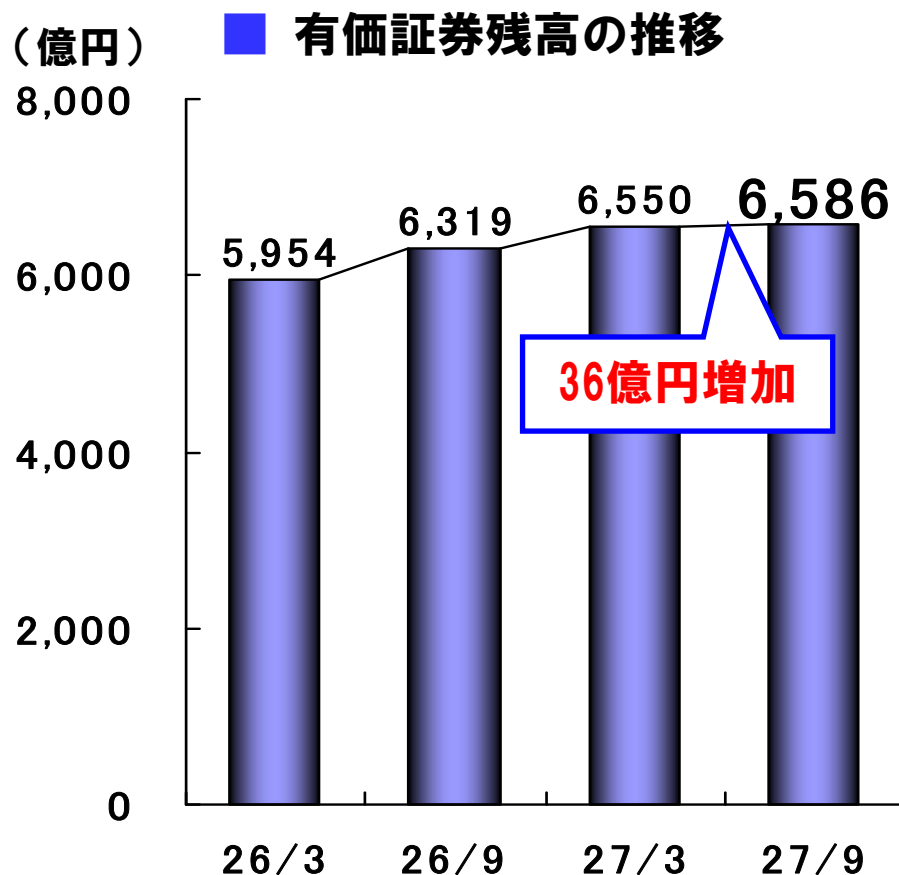
不良債権処理損益は減少したものの、株式等関係損益の増加などにより、経常利益は前年同期比43百万円増加の32億7百万円となりました。

※1 業務純益とは、金庫の基本的業務に係る利益です。

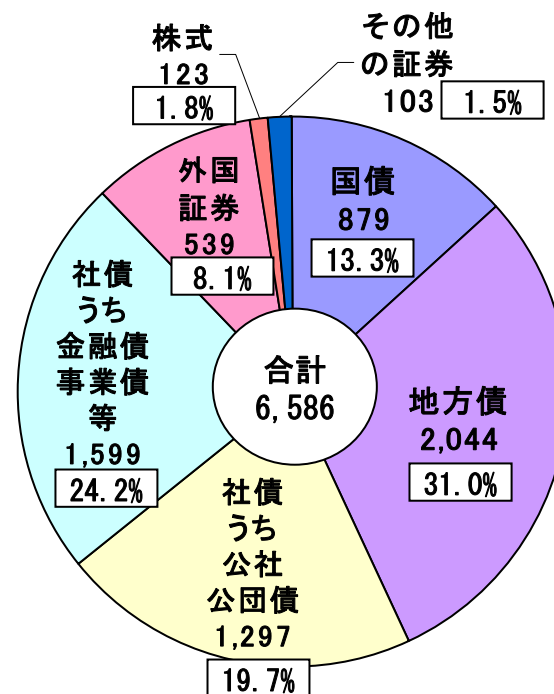
※2 実質業務純益とは、業務純益から一般貸倒引当金繰入額を除いた、より本業の収益力を表す利益です。

4-1 有価証券の運用状況

- 有価証券残高は6,586億円。平成27年3月末比36億円増加。
- 国債、地方債、格付けの高い社債および外国証券等を中心に安全性重視で運用。



■ 有価証券の内訳 (平成27年9月末) (億円)



(注) 外国証券の元本はすべて円建てで運用しています。

4-2 有価証券の評価損益

- 有価証券の評価損益は219億83百万円。平成27年3月末比10億28百万円減少。
- 市場金利が低下したことにより、国債・地方債等の債券の評価損益は増加。
- 一方で、世界経済先行き不透明感の高まりから、株式相場が下落。
株式の評価損益は減少。

有価証券の評価損益

(単位：百万円)

	平成27年 3月末	平成27年 9月末	増	減
有価証券の評価損益	23,011	21,983	△1,028	
株式の評価損益	4,730	3,852	△878	
債券の評価損益	16,219	16,559		339
その他の評価損益	2,061	1,571	△490	

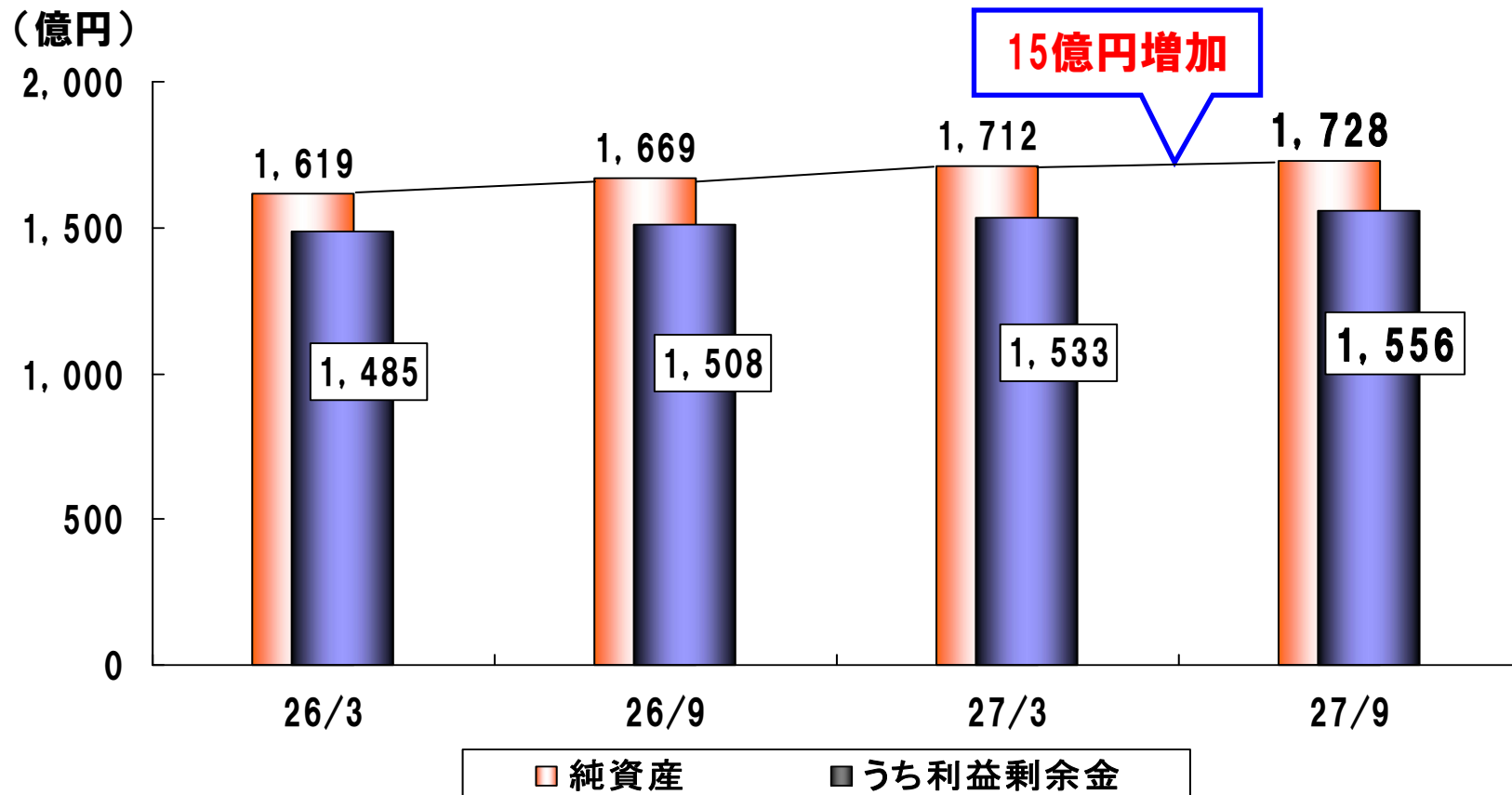
株式相場下落により、株式の評価損益は減少。
(日経平均株価：
3月末19,206円→9月末17,388円)

市場金利の低下により、債券評価損益は増加。
(10年国債利回：
3月末0.40%→9月末0.35%)

※その他は、外国証券、投資信託等

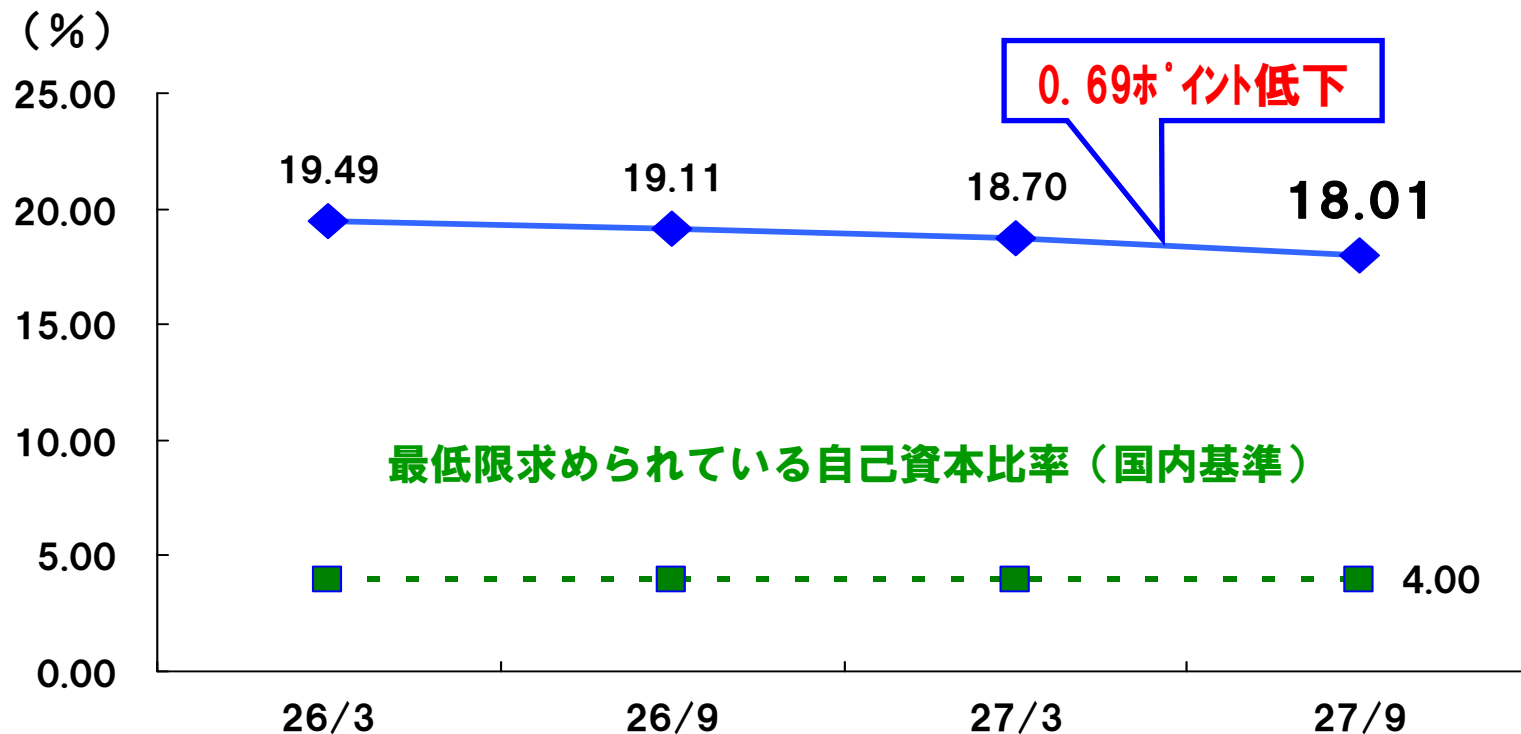
5-1 純資産の状況

- 純資産は1,728億円。平成27年3月末比15億円増加。
- 創業以来の利益の積立金である利益剰余金は1,556億円。
- 純資産に占める利益剰余金の割合は90.0%と、純資産の質の高さが特徴。



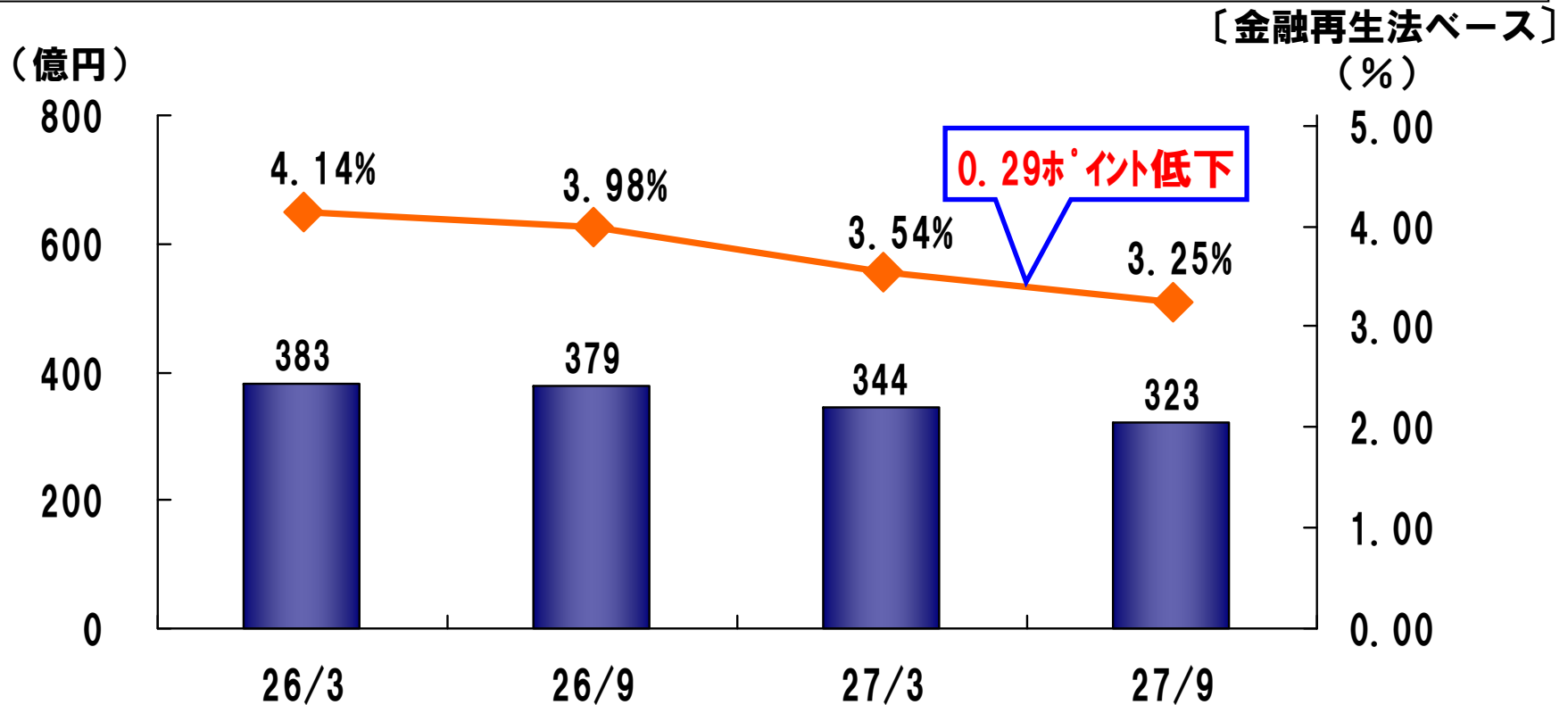
5-2 自己資本比率の状況

- 金融機関の安全性を表す代表的な指標である自己資本比率は、利益計上による自己資本の増加はありましたが、順調な預金等の増加に伴う総資産の増加、特に貸出金の増加等の要因により平成27年3月末比0.69ポイント低下し18.01%。
- 信用金庫に求められる国内基準4%を大幅に上回っています。



5-3 不良債権の状況

- 不良債権比率は、平成27年3月末比0.29ポイント低下し3.25%。
- 地域経済への影響を十分考慮しつつ、引き続き「事業再生・経営支援活動」を主体に改善に努める方針。



※当金庫は債務者に対する債権のうち、回収可能性がないと判断した部分について、直接貸借対照表から減額する部分直接償却を実施しています。

6-1 貸借対照表 (平成27年9月末現在)

科 目		金 額
(資産の部)		百万円
現 金		18,758
預 け 金		498,416
買 入 金 銭 債 権		1,000
商 品 有 価 証 券		16
有 価 証 券		658,665
貸 出 金		992,684
外 国 為 替		695
そ の 他 資 産		11,513
有 形 固 定 資 産		20,033
無 形 固 定 資 産		398
債 務 保 証 見 返		2,488
貸 倒 引 当 金		△2,431
(うち個別貸倒引当金)		(△481)
資 産 の 部 合 計		2,202,239

科 目		金 額
(負債の部)		百万円
預 金 積 金		1,913,431
借 用 金		102,500
外 国 為 替		87
そ の 他 負 債		4,676
賞 与 引 当 金		562
退 職 給 付 引 当 金		468
役 員 退 職 慰 労 引 当 金		291
偶 発 損 失 引 当 金		291
睡 眠 預 金 払 戻 損 失 引 当 金		109
繰 延 税 金 負 債		4,512
債 務 保 証		2,488
負 債 の 部 合 計		2,029,420
(純資産の部)		
出 資 金		1,250
利 益 剰 余 金		155,612
会 員 勘 定 合 計		156,862
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金		15,956
評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計		15,956
純 資 産 の 部 合 計		172,818
負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計		2,202,239

6-2 損益計算書 (平成27年4月1日~9月30日)



科 目	金 額	経 常 利 益	3,207
	百万円	特 別 利 益	0
経 常 収 益	13,162	特 別 損 失	3
資 金 運 用 収 益	10,516	税 引 前 当 期 純 利 益	3,205
貸 出 金 利 息	6,443	法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	783
有 価 証 券 利 息 配 当 金	3,234	法 人 税 等 調 整 額	68
役 務 取 引 等 収 益	1,370	法 人 税 等 合 計	852
そ の 他 業 務 収 益	118	当 期 純 利 益	2,353
国 債 等 債 券 売 却 益	80	繰 越 金 (当 期 首 残 高)	470
そ の 他 経 常 収 益	1,156	当 期 未 処 分 剰 余 金	2,824
経 常 費 用	9,954		
資 金 調 達 費 用	1,087		
預 金 利 息	1,002		
役 務 取 引 等 費 用	784		
そ の 他 業 務 費 用	0		
経 費	7,878		
人 件 費	5,145		
物 件 費	2,489		
そ の 他 経 常 費 用	204		
貸 出 金 償 却	159		

7 平成27年度計画の進捗状況

※平均残高：半年を平均した残高です。

	項目	27年9月期 (半期)実績	27年9月期 (半期)計画	計画対比
規模	預金平均残高	1兆8,652億円	1兆8,289億円	+363億円
	貸出金平均残高	9,652億円	9,608億円	+44億円
収益性	実質業務純益	22億円	24億円	▲2億円
	経常利益	32億円	25億円	+7億円
	当期純利益	23億円	18億円	+5億円
健全性	自己資本比率	18.01%	—	—
	不良債権比率 (金融再生法ベース)	3.25%	—	—

※健全性を表す自己資本比率、不良債権比率は年度計画を設定していますが、半期計画は設定していません。

対処すべき課題

(対処すべき課題①)

支援力、営業力の強化

- 確固たる「全員営業体制」の構築
によるお客さまの課題解決支援**
- 営業基盤の強化・拡充**
- インターネット取引での利便性向上
サイバー攻撃への対策**

(対処すべき課題②)

生産性の向上・ローコストオペレーション体制 の構築

- 職員一人当たりの生産性の向上**
- 機械化・IT化の促進**
- 業務プロセス等の抜本的な見直し**

（対処すべき課題③）

人材育成・能力開発・人材活用の強化

- 接点に強い課題解決力のある人材育成**
- 専門力を持った職員の育成**
- 若手職員の早期戦力化**
- 女性職員の業務拡大と活躍促進**

本日は、経営報告会にご参加いただき、誠にありがとうございました。
本日の説明内容に関するご照会等がございましたら、下記までお願いいたします。

【お問い合わせ先】

**碧海信用金庫
総合企画部 企画グループ
TEL : 0566-77-8102**

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれております。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。
将来の業績は、経営環境の変化などにより、変動する可能性があることにご留意ください。
また、本資料に掲載されております計数につきましては、会計監査人の監査を受けておりません。